

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 渡 辺 文 彦 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、渡辺文彦君。

（3番 渡辺文彦君 登壇）

○3番（渡辺文彦君） 通告に従いまして、壇上より一般質問を行いたいと思います。

まずは、町長、ご就任おめでとうございます。

この度の一般質問において私は1点だけ町長の町の行政運営についてお伺いしたいと考えております。

今回の町長選におかれまして町長は、町民の満足度の高い町をつくりたいということを語っておられました。その中で、いくつかの公約が語られております。その内の4点について、今回私はちょっとお伺いしたいと思います。

1点目は、町長の描く町の将来像であります。

また、2点目は、その将来像に対して、この人口問題、人口減少に対してどう対応していくかということをお伺いしたいと思います。

それと、3点目に、いろいろな課題を実行するにはやはり予算というものが必要になります。その予算に対して町長は税収を上げるとか、ふるさと納税を増やしたいということを語られておりました。その辺に対しての対策をちょっとお伺いしてみたいかと思っております。

4番目として、産業振興についてお伺いしたいと思っております。

これらを展望することによりまして、今後の・・・、町がどのような方向にいくのかを展望できたらいいかと思っております。

町長が議員時代、前町長の町の運営に対しまして船に例えて海図もGPSもない航海をしているのではないかと批判をされておりました。おそらくどの町長の方も町長になる時にはきっとこんな町にしたいという強い思いがあると思います。前町長においてもおそらくその強い思いはあったと思います。そこにあった大きな目標も明らかにしていたはずであります。

ところが、現町長が批判するような批判が出たとするならば、それはなぜかということになるんだと思います。それはおそらく政策の差かなと考えています。目標に対しての取り組みの差が

表れたと考えています。

登山に例えれば、頂上に到達するというのは目標点で、誰しも一致するわけですがけれども、登るルートはそれぞれであります。そのルートの差が政策の差であるかと考えます。その差が実現可能な対応だったのか、またはちょっと至らない対応だったのかという差になって表れるのかと私は考えるわけであります。

現実的には町の課題の中にいろいろ問題が錯綜して単純には解決できない問題がたくさんあると思います。おそらく町長もそのことを深く感じている、強く感じているのではないかと思います。

どんな信念があって、どんなことをやりたいと思ってもなかなか一人の思いではそれは到達できないと私は考えています。やっぱり多くの方の支えがあってできるのかと思います。

そういう中で、議員もやっぱり町長の考えに支持するところは支持し、批判するところは批判して、町民のために尽くすべきかと考えます。そんな立場において今回の質問をしてみたいと思っています。

私の壇上からの一般質問は以上でございます。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 渡辺議員の質問でございます。

町長の目指す町のあるべき方向性はどのようなものかということでございます。私は渡辺議員が申されたとおりにかつて議員としてデビューした時に、松崎町は船の航海に例えると海図もないGPSもない、目的地もわからない船に乗ってただ航海している状態であると、このままいくと難破船になってしまうという指摘をいたしました。

では、私が考える松崎町のあるべき姿、目的地はどのような町かといいますと、それは町民満足度の高い町であり、そのためには物と心の豊かな町でなければならないと考えております。そして、これは決して数値化できない目標であります。

かつてチャールズ・チャップリンという人はこのように言いました。「夢と希望と少しのお金があれば生きていける」と生きていくには夢と希望が必要条件だと・・・、しかし、十分ではない、お金が必要であるというふうにチャップリンは言っていると私は解釈しております。

物と心の豊かな町、町民満足度の高い町にするための手段といたしまして、農林水産観光業の一体推進による経済活性化、災害に強いまちづくり、医療、福祉の充実を掲げさせていただきました。

具体的な施策については今後、予算に反映させ、一步ずつ取り組んでまいります、最終的に

は町民全体の所得が増加するとともに「さくら葉香る花とロマンの里」に住んでいることを誇れる町にしたいということが私が思い描く松崎町の姿でございます。

2つ目、人口減少の問題にどのように取り組むつもりかということでございます。

町の人口ビジョンにおける人口の将来展望としては、国が2060年に出生率2.07、人口1億人を目指して人口減少抑制対策を講じていることを考慮すると、2060年に6275人を確保維持していく必要があります。

この推計結果をもとに、人口ビジョンでは、当面社会移動による人口減少対策に重点を置き、定住促進、移住促進、立地特性を活かした居住を誘導する地域整備、産業振興を通して、多様な世代が暮らすまちづくりを推進いたします。

このために、総合戦略に基づき、環境・文化の循環、ひと・経済の循環、子育て・教育の循環、健康長寿・安心社会の循環の4つの戦略のもとに施策を進めています。

2060年というとは43年後でありまして、気の遠くなるような話でございます。渡辺議員もご承知のとおり日本全体の人口が減っているわけです。静岡県全体の人口も減っている。下田、賀茂郡の人口もまた減っている。県内で増えているのは藤枝市、長泉町等でございます。

藤枝市は、隣の焼津市が津波で怖いということで焼津から藤枝市に移ってきているということ、全てではないですが、そういう要因がある。それと、長泉町は、医療施設、がんセンターとか、医療施設の充実、それと三島に近いという要因があるかと思えます。

このような現実の中で、松崎町の人口が増えるということは非常に厳しいものがあるわけであります。

私が町長になって、いきなり人口が増えるということは全くあり得ないことであります。そういうことは選挙公約でも言うておりません。ただし、坐して死を待つようなことは私は嫌いであります。努力をするということであります。考え得るできることを一步一步進めて人口減少を少しでも食い止めたいと思っているわけでございます。

次に、3つ目、税収増、ふるさと納税増を語っていたが、いかなる方法で実現するのかという質問でございます。

平成28年度決算における松崎町の財政状況は、自主財源比率が32パーセントと低く、依存財源に頼らざるを得ない状況にあります。自主財源を確保するには、最も大きなウエイトを占める税収を増やさなければならないことは渡辺議員もご承知のことと思えます。

そのためには、農林水産業と観光業の一体推進が必要であると私は考えております。特に桜葉は松崎産が全国生産の7割を占めていることから桜葉生産を重点的に推進し、現在の生産額を増

やすことにより雇用拡大、生産者収入の向上に結び付けることができると考えております。桜葉中心でございますが、ほかの農産物についても開発して、全体の収入アップを図りたいと思います。

また、ふるさと納税を増やすためには広報の充実もさることながら、松崎町ならではの魅力的な返礼品をいかに多く取り揃えるかが重要でございます。これまでも町内の企業・団体はもとより帯広市や安曇地区の特産品、伊豆トレイルジャーニーなど返礼品を増やしてまいりました。

返礼品の拡大、充実には、品物を提供していただく企業・団体の協力が必要不可欠であることから、今後も積極的に働きかけを強めてまいりたいと考えております。

次に、4つ目、農業と観光業の一体的推進とはどのようなものか。特に桜葉振興はどのように取り組むつもりかという質問でございます。

桜葉は、需要はありますが供給が追いついていないというのが現状であります。需要は旺盛で供給が、生産が追いつかないということは、これ自体、実にもったいない話であります。私は、この生産体制の強化を図ってまいりたい。

それには、静岡銀行、静岡経済研究所、三島信用金庫、農協等から各地区の生産体制の好事例を徴収し、この町に合った形の体制を整えてまいりたいと考えております。

そして、小中高校生が10月頃発表した「まつぎきマイドリーム2017」で、これは松高生が発表したわけでございますが、桜葉をボランティアの項目として取り扱っていただきたいと、そうすれば、ボランティアとして参加する生徒が増えるだろうというようなアイデアが出ました。非常に頼もしいアイデアだと思います。

生産者はもう高齢化しているから無理だという既成観念は捨てて、いろんな角度からどうやったらできるだろうかということを見るとアイデアは出てくると思います。

それから、最近では、ハウス栽培で減農薬の桜葉を生産しようという取り組み、動きがあります。町としてもこの動きに対しては応援をしていきたいと思っているわけでありです。

また、農薬の登録や害虫予察による農薬の効果的な散布による品質、生産能力の向上、株式会社又は農業法人などによる生産体制を強化いたしまして、生産収入の向上を図ることを目指してまいります。

いずれにしても、生産者、漬け元、金融機関、農協など関係者が協力する体制をつくり、推進していきたいと考えております。

次に、耕作放棄地の利活用に対する取り組みについての質問でございます。

耕作放棄地につきましては、平成27年度末で79ヘクタールだったものが、平成28年度末には

84ヘクタールと5ヘクタール増加しています。内訳としては、農地へ再生したものが3ヘクタールありましたが、新規に発生したものが3ヘクタール、農地相談員による立ち入り困難地区の現地調査等を実施した結果、新たに発見したものが5ヘクタールありました。現地調査については、現在も実施中であるため今後も増加する可能性があります。

耕作放棄地の解消に向けて、今までどおり中間管理機構による新規就農者とのマッチングや基盤整備事業による農地の集約化、効率的な農業の推進などの対策をはじめ、その他にも農業委員会や農地利用最適化推進委員会の中でも対策を検討しています。

また、先ほど桜葉振興について述べましたが、桜葉生産のピーク時には45ヘクタール作付けられていたものが、平成27年度では20ヘクタールまで減少しているため、この耕作地を復活させること、さらにイノベーションにより増加させることを目指し、体制を整えていきたいと考えています。

例えば、専門の担当者を配置することや、農協、金融機関などのアドバイスを受けながら、直営での生産活動の展開など、色々な方法を検討しながら最適なものを選択してまいりたいと考えております。

渡辺議員の最後の質問でございます。失礼。最後から3つ目、鳥獣被害対策はどのように進めるのか。

鳥獣被害については、農林業者の耕作意欲の低下や石積み等の農業施設の被害もあり、耕作放棄地の増加にもつながっております。

町では対策として、防護柵や電気柵の設置について補助金を交付したり、今年度は新たにハクビシン等の小動物から農作物の被害を守るため、小型箱わなの貸出しについて進めています。また、イノシシ、シカ、サル等については、猟友会に駆除をお願いしていますが、なかなか被害の減少にまで至っていないのが実情でございます。

今後も防護柵等の補助金や猟友会と連携し駆除等の実施を継続していきますが、鳥獣被害は全国的な課題となっておりますので、他地区で効果のあったICTわなの導入や農地の集積化し一帯を電気柵で囲う事例など参考にしながら、松崎町に合う新たな方法も検討してまいります。

次に、「道の駅パーク構想」についての考え方を問うということでもあります。

「道の駅パーク構想」は、道の駅花の三聖苑と旧依田邸を中心ににぎわいを創出し、交流人口を拡大することで町の活性化につなげることであると考えます。このことを具現化するために現在道の駅パーク構想基本計画策定委員会やワークショップを開催し町民の皆さまや学生など幅広い意見を集約しアイデア出しを行っています。

「道の駅」花の三聖苑については、町民と観光客が触れ合う一大交流ゾーンにするとともに、高齢化が進み不便を強いられている周辺地域の生活を支える機能を強化したいと考えております。

また、旧依田邸については、登録有形文化財としての価値を残すことは当然のことながら、温泉や食といった面も加え、地域に賑わいが生まれ、町の活性化につながる施設にしていきたいと思います。

次は、渡辺議員の最後の質問であります。

町長は町を再生すると語っているが、それには町民の理解、協力が必要であるとする。いかにして理解、協力を求めていくのかということでございます。

政策を実行していくためには、町民の皆さまのご理解、ご協力が必要であることは十分認識しており、町の第5次総合計画においても「多様な主体により協働で進めるまちづくり」の推進を掲げているところでございます。

そのためには、まず情報公開を徹底し私の方針を町民の皆さまにお伝えしてまいりたいと思います。特に広報活動として広報まつぎきやホームページの積極的な活用を図るとともに、広聴活動として、松崎、中川、岩科、三浦地区へ出向き町民の声を聴く町政懇談会も行っていきたいと思います。

私は、現場主義を徹底し、地域の皆さまの声を聞き、政策に反映してまいりたいと思っております。現場主義ということは、真実は現場に宿るとい言葉がございます。良いこと、悪いことは全て現場にあるということでございます。

したがって、現場に行くことによって問題の解決が可能になると、それが現場主義だと私は考えております。

以上でございます。

○3番（渡辺文彦君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○3番（渡辺文彦君） これからいろいろお伺いするわけですが、町長もまだ就任直後ですので、まだ実績がないわけですから、実績がないものに関してはお答えにならなくても結構ですから、思いがあれば、思いだけ語っていただければ結構であります。

まず、最初にお伺いしたいんですけども、ちょっと冒頭でも、壇上でも話したんですけども、町長は、前町長の考え方に対して批判的だったわけですね。批判的というか、海図もGPSもないという表現をされていたんですけども、おそらく前の町長も町をこういうふうにしたいというイメージは持っていました。それは当然総合計画にも反映されているし、毎年予算の中

にも反映されていたと思うわけです。私は、にもかかわらず、長嶋議員が敢えてそこを批判する根拠をまずお伺いしたい。わかりますか。言っている意味が。

○町長（長嶋精一君） 批判をした根拠ということの答えになるかどうかわかりませんが、前町長のおやりになっていたその施策というものが、私にとっては総花的に感じたんですね。このようにあれもやる、これもやる、こっちも手を出す、あっちも手を出すということは虻蜂取らずになるのではないかと私は考えたわけです。

だから、渡辺議員が先ほどおっしゃったように、富士山のとっぺんに登るには、富士宮口から登るのか、裾野から登るのか、あるいは山梨の方から登るのか、違いはあるかと思えますけれども、ぼくは、どうも総花的手法ではないかということは・・・、各課から出てくる・・・、町長宛てに出てくる、あるいは予算として出てくるものを、これは抑えろと、これは来期だというふうにジャッジをするところがなかったのではないかと私は思うわけです。

やはりみんな課があるということは、人がいることで予算を取りたいわけです。そうじゃなくて、ぼくのやりたい町政はこうやるんだと思ったら、当然濃淡があつて然るべきであつて、それが町民の幸せに繋がっていくんじゃないのかと私は考えているわけです。

前町長と全く話が違うということじゃなくて、渡辺議員がおっしゃるように手法が私は違うんじゃないかと考えています。以上です。

○3番（渡辺文彦君） おそらく手法の差だとぼくも思います。そういう意味では、その差が出たのかなと・・・、前町長で考えてみれば、その手法の差が結果に結びつかなかったのかなと私は考えているわけです。

町長も今度新たに公約を掲げながら自分の目標に近づくための努力をされるわけですがけれども、特に強調して、ここだけは取り組みたいという集中した部分がなんかなかったんじゃないか、総花的だったとおっしゃったわけですがけれども、総花的ではない自分はこれだけは絶対やっていきたいということがもしあったら、そこをお伺いしたいんですけれども・・・。

○町長（長嶋精一君） 私は、最終的には・・・、チャップリンの言ったことを引き合いに出しましたけれども、やはり少しのお金ということで言いましたけれども、町民全体の所得を上げていきたいなと思っているんです。

それは、松崎町平均の所得というのは、おそらく200万円位になると思います。これを御殿場、裾野と比較すると、御殿場、裾野の方は約500万円位あったかと思えます。それを、御殿場、裾野並みにしようという考えではないわけです。なかなか数値化できませんけれども、極力所得を上げていきたい。

その手段として、農林水産、観光業の一体推進を挙げているわけであります。中でも桜葉というのは、もう何回も聞いておられると思いますけれども70パーセントの生産を松崎町がやっているということは、ほかの地方では、地域ではほとんどやっていないということですね。松崎町と南伊豆町を合わせるとほぼ100パーセントをこの地域で桜葉を生産しているということになるわけですね。

ビジネスというのは、ほかでもいっぱいやっているということは難しいですよ。ほかではやっていないというこのアドバンテージを・・・、私は、これはしっかりと追及していった方がいいと思っています。それで所得が250万円になるとか、そういうことは明示できません。

しかし、そのことによって、皆さん、雁が飛んでいく、その雁につられてほかの鳥も飛んでいくという雁行体制という言葉が昔ありました。ほかの農業も私はそれに続いてもらいたいと思っています。

少子化、高齢化というのは、裏を返しますと人口減少ですね。大量生産、大量消費の時代は終わったとみております。これからは、その地域独特の小さな農場であったとしても、特異な・・・、その地域の特色ある農産物を作っていく、例えば、青パパイヤ、自然薯、それから桑もそうですね。それと、絹さや、野ぶき、その他たくさんありますが、それらをより強固に作っていくことによって、私は、桜葉とそれらの農作物で1年間で生活ができると、夫婦2人の生活ができるというようなビジネスモデルを提示して、何とかよそから人口というか、移住者というものを募ってまいりたいなと思っています。

要するに、何としてでも所得を上げていきたい。それには、いろんなイベントとか、いろんな計画はあるわけがございます。コンサルタントに頼んでやっているケースもあると思います。私が考えていることは、町内でお金が行き交う、買物は地元の商店街、地元の業者でやってくださいということと・・・、地域内経済循環ですね。それと、よそからお金が入って来るというイベントでなければ、私ははっきり言うと、あまりやりたくないなと思っています。そこに修練してやっていきたい。外からお金が入って来ると・・・、そうすると、すぐに工場誘致とか、企業誘致の話が出ますが、これほど難しいものはないわけであります。

皆さん、沼津の工業団地、御殿場の工業団地、これは東京からすぐ近いですね。それでも工場が余っているという現象もあるわけであります。その御殿場、沼津から更に1時間半位かかってこのような所に来て工場を造るというメーカーさんはなかなか出ないんじゃないかと思っています。やっぱりこの地域をいかした観光、それから農業、漁業、これらを推進していくことが、時間がかかるかと思いますが、オーソドックスな方法であると・・・、それによってお年寄りも生



きがい、やりがいを感じる。所得を上げていくということを私は考えているわけでございます。

ちょっと答えになるかわかりませんが、以上でございます。

○3番（渡辺文彦君） 町長の丁寧な説明ありがとうございます。もっと簡潔に言っていただかないと時間的な配分が大変かなと思いますので、またよろしくお願いします。

町長の言われたように、何か特別なもので特化しているということは、ぼくも賛成です。そのことはぜひ進めるべきだと思います。そのことは我われ議員も町長も議員の時に町長に訴えてきたはずですよ。おそらく。

でも、それが実行されてなかったんだと思います。そういう意味で、もっと実行性のある政策を具体的に進めていくことが必要なのかなと思います。

それに関わってですけども、これは公約の中には直接は入ってないんですけども、何らかの機会を目にしたんですけども、町を再生するというので、町の再生基盤を最初の2年間で取り組みたいということをおっしゃっているわけですけども、その2年間と区切って何をやるのか、どういうことをやりたいのか、手短に、もう時間がなくなりますので、手短にお願いします。

○町長（長嶋精一君） 2年間で区切るというのは、私自身の問題でもあったんですけども、随分より始めよという言葉があったように、身内のこの役場の組織、私を含めてそういうところをきちっとした強い体制にしたいと、それは2年間でやらなければいけないということが大いに含んでおります。

そして、公約をした順天堂病院行の直通バス、買物支援のための・・・、買物不自由な地域についてはマイクロバスを出すということ、すぐできること、身近なことから始めて行きたいということが・・・、2年間はそういう期間ではないかもしれませんが、私にとっては2年間でそういうことをやっていきますよということでもあります。

生産体制じゃなくて・・・、役場の組織体制をきちっとすることは当然入っております。それから、最もすぐできることというのは、私の町長の給料を半分に、あと半分は福祉の方に活用してまいりたいということでもあります。

本当にすぐやることと、2年間でやることを織り交ぜて2年間と言っているわけでございます。以上でございます。

○3番（渡辺文彦君） できるか、できないかはともかくとして、やっぱり政策的なものとか、目標値というのは期限を切った方がよろしいかと思えます。そうしないと、なかなか結果がだせないまま時間ばかり消費していく形になると思いますので、ある程度期限を切って、その中で集

中的に取り組むことが必要かと思えます。

時間がなくなりますので、次の人口減少の問題についてちょっとお伺いしたいわけですが、町長は先ほどから町民の所得の向上を図って、町民の満足度を高めたいということをおっしゃっているわけです。現状としてみて、いま町が人口減少を起こしている大きな理由として若者の転出ということもあるわけです。その若者たちがここで働く場がないということが一番原因かと思うわけですが、その若者たちがここに戻ってくるような仕事がどうやって確保できるかということが非常に問題のわけですね。基本的に。

ただ、それ以上に、いまある・・・、私のある知り合いの方が持っている事業所なんですけれども、20人位の人を募集したんですけども、誰も来ないと・・・、若い人たちが誰も来てくれない。もうよそにみんな出て行ってしまおうんだということ言うわけです。地元には仕事があるにもかかわらず、人が出てしまっている。そういう問題に対してどうやって取り組むのかということですね。おそらくそこに一番大きなネックになる・・・、若者にとってこの町自体に楽しみがないということが一番大きな理由なのかもしれないですけども、それと、おそらく所得だと思っただけですね。この町で得られる所得の水準があまりにも低いんじゃないかなとぼくは思っています。

町で割とそれなりの収益が得られている人というのは、役場の職員、銀行員とか農協の方かなと思っただけです。一般の商店とか、その辺で働いている方はかなり現状は厳しいのかなと思っただけです。

そういう中で、民間が稼げる地域にしなくちゃいけないわけですね。それが一番の課題なんですけれども、町長、その辺をどうやって進めるつもりでいるのか、ちょっとお伺いしたい。

○町長（長嶋精一君） これも答えになるかどうか、私もわかりませんが、観光推進する上で安売りをするようなことはいかがなものかと・・・、全てだめだとは言いませんけれども、利益なき繁忙に陥ってしまうということを言いました。やはり安売りをすることは、従業員の給料は抑えられていくということになるんですね、単純に言いますと。

したがって、適正な価格で物を販売する、あるいは宿泊していただくというふうには、やはり知恵を絞っていく必要があるのではないかと、そうすることによって、従業員さんの所得も給料も上がっていく、賞与も上がっていくということをやっぱり追及するべきではないのかなと思っただけです。

1万円でも高いと感じるもの、1万円でも「安いな、これは」というようなものがあるわけですね。同じ1万円でも。

我われの求めていくことは、1万円でお客様に「これは買い得だな」と思えるようなものをや

はり提供していく、料理においてもやはりいろんな組み合わせをする。地元の食材を使ったものを提供していく、喜ばれる、リピーターになっていただくということを追及していくということが必要であると思います。

所得をそれによって上げていくということでございますので、非常に気の遠くなるような施策でございますけれども、私は地道にこれをやっていくしかないのかなと・・・、先ほど申しましたとおり、大手の旅館、大手のメーカーが来てくれれば一番いいんですが、なかなかそのようにはいかないということでもあります。

かつて昭和 49 年、50 年・・・。

○議長（土屋清武君） 町長、もう少しわかりやすく、要領よく回答してください。

○町長（長嶋精一君） すみません。自分の思入れがあつて・・・。

ちょっと簡単に言いますと、昭和 53 年頃に下田では下田ドックという会社が企業城下町を形成しておりました。その下田ドックが知っているとおりに潰れたわけです。倒産したわけです。

そして、下田経済というのはどうなるんだろうかと思っていたわけではありますが、その当時観光が勃興していたわけですね。観光が下田の人たちを吸収してくれたという事実があります。今の状態とはかなり違っておりますけれども、観光というものは裾野が広い、これを私はやっていきたいと思っております。

ちょっと答えになっているかわかりませんが・・・。

○3番（渡辺文彦君） 町長、申し訳ないですけども、時間・・・いっぱい聞きたいことがありますので、手短にお願いいたします。

簡単に言ってください。総合戦略では 2060 年に 6400 人位を目標にしているわけですけども、人口数を。これは、現実的に可能ですか。もうイエス、ノーで結構です。

○町長（長嶋精一君） 非常に難しいと思います。

○3番（渡辺文彦君） 私もそれは重々理解するところであります。おそらく僕の推計では、3000 人位になっているのかなというのが実感でありますけれども、結局町民にとって人口はどういう意味を持つかということなんですね。一番基本に・・・、もうほかの・・・、いっぱい聞きたいこともあるんですけども、ここが一番重要で、ここをやっていきたいんですけども、町民の満足度を高めるということは非常に大切になるわけですけども、果たして・・・、仮に町の人口が今の半分になった時に、町が町として機能しているかということですね。

そこで本当に地域のコミュニティが保たれて、住民の満足度が得られるのかということですね。おそらく所得でいえば、人口が減少しても労働生産性を上げれば、その分をカバーできるから豊

かになりますよという経済学者はいます。それは理屈ではよくもわかります。生産性が上がれば、それなりに個人の所得が上がるのはわかるんだけど、町として、町全体として、それが裕福な町なのかどうか、その辺がぼくにはよくわからない。その辺に対するイメージをどう考えるのか、確認・・・、お伺いしたい。

○町長（長嶋精一君） 最終的に何人になるとかということはわかりませんが、人口は少なくなる。減っていく、半分になる、そうしたら、私は議員の時に申し上げましたけれども、この行政の規模というものがやはりそれに応じて、こういうふうになっていかないと今のままの行政のままだとアンバランスになるのはおわかりになると思います。

それは、人的なアンバランスだけではなくて、設備の問題もそうであります。それをきっちりと合理化するようなことをしておくということが住民満足度の高い町になるわけではないんですけど、数値的なバランスを考えると、そういうふうにするしかないということ、それと、こうするぞということではないんですけど、民間企業は大変な時になりますと、やはり異業種でも合併をしていくということをやっているわけですね。銀行においては、バブル崩壊後、あの住友銀行と三井銀行が合併をしているということもあるわけです。

したがって、そういう問題にも何十年後かわかりませんが、人口がどんどん、どんどん減っていったらば、やはり考えられることではないかと私はいま思っております。すぐにそうするということ、やるということじゃありません。すぐそういうと、長嶋は合併論者だということもかもしれません。そうじゃないんです。そうじゃないんだけど、そういうことも考え得るんじゃないかと思っております。

○3番（渡辺文彦君） 人口減少の問題というのは、国全体で減っているわけですから、町が一生懸命やってもおそらくかなり解決は難しいと思います。その問題に対して、この子育て支援をするということでもおそらく埋まらないと思います。これは基本的に地域に仕事がないということが一番やっぱり問題であって、いま、若い人たちの非婚化、晩婚化というのが決定的な少子化に影響しているのは事実でありますから、この辺が解消されてこない限りはおそらくいくら子育て支援に力を入れてもそんなに実績は上がらないと思います。

実際、子どもを持っている家庭の平均出生数というのは決して低くはないんですよ。だから、子育て支援をしたからといってそんなには伸びないと思います。もしするならば、思いっきり100万円位出産祝い金を出すくらいの気持ちがないとおそらく伸びないと思います。

時間がなくなりましたので、ちょっとはしよりながらいきたいと思うんですけど、その所得を上げて税収を上げたいというようなことで、いろいろ議論になるわけですけど、その中

で、地場産業を活性化させたいという話で、話としてはみえるんですけども、ただ、町が抱えている問題、農業にしてもいろいろ・・・、ほかの民宿なんかにしても後継者の問題というのが非常にあるわけですね。

この町を次に支えてくれる人がいなくなっているという・・・、決定的に・・・、これも人口減少に繋がっている問題なんですけれども、この辺をクリアしていかないと目標である税収を上げたいということがあっても、やっぱり到達していかないんだろうなと考えています。このことに対してまた議論を求めていると時間がないので、ちょっとふるさと納税の件に関してだけちょっとお話してみたいかと思えます。

町長も公開討論会の時に、ふるさと納税は上げたいということをおっしゃったと思えますけれども、言っていないですか。私の勘違いだったかな。

(町長「所得は言っています。所得を上げたいと・・・」と呼ぶ

○議長（土屋清武君） お互い2人でやらないで、議長を通してください。議場ですから。

○3番（渡辺文彦君） 町長が言った言わないはいいけども、ふるさと納税の問題があるわけなんですけれども、ふるさと納税を町長は上げた方がいいとお考えですか。

○町長（長嶋精一君） はい。そう思います。

○3番（渡辺文彦君） それは・・・、ちょっと役場の職員の方には資料を配付していただいたんですけど、ここに・・・、この資料を見ていただきたいんですけども、ここに松崎の現在のふるさと納税の実績が書かれています。生産者と商品品目と寄附金とその累計である合計金額のふるさと納税の寄附額が示されているわけなんですけれども、私はこの表を見て非常にびっくりしました。というのは、以前からこのふるさと納税に関して、前町長にも各議員が「なんでこんなに松崎はふるさと納税が少ないんだ」ということを盛んに問うていたわけです。それに対して町長はいつも生産者をお願いするんだけど、売り場がもう決まっているから協力できないというような回答ばかり受けていたわけです。私は、おそらくほかの議員の方もそういう印象が多いかとは思いますが。

ところが、この表を見て感じることは、そうではないんですね。制度がいいか悪いかはともかくとして、松崎の生産者が提供している商品アイテムは納税者に対して魅力的ではないということが明らかなんです。この表から見えるのは。

この商品に対してならふるさと納税をしたいなと思えるものがあまりにも少ないということがこの表で一目瞭然に読み取れる。ぼくは。

それは生産者が悪いのか、組み合わせが悪いのか、その辺は十分考える必要があるのかなとぼ

くは思うわけです。その辺は生産者と町とがやっぱり一体になって話し合いをして、どうしてやっていくかを議論すべきだと思います。

前の町長の時にもその話はあったそうなんですけれども、一回やってそれ以上やっていないそうです。この参加者の話によりますと・・・。

ですから、この生産者の方々に一回集まっていたいただいて、いろいろな商品品目の組み合わせを一回考えてみたらいかがでしょう。そうすることによって、松崎のふるさと納税がもう少し活性化するんじゃないかなとぼくは思うわけですね。

結局・・・、いろんなことを出されているんですけども、いろんな商品が提供されているんですけども、納税する方に対して魅力的でなくなっている・・・、魅力的に思えないものがいっぱい並んでいるという状況が非常にもったいない。これを何とか改善していただきたい。私は。

もう最初から物がなければ話のしようがないんですけども、あるんだから、それを・・・。

○議長（土屋清武君） 渡辺君、延長しますか。

（渡辺議員「はい」と呼ぶ）

○議長（土屋清武君） 5分延長します。

○3番（渡辺文彦君） 活用するような方向をとってしていただきたい。これは質問して回答を求めていたら時間がないので、これで終わります。

それで、ずっと話が飛びまして、農業関係のことはいろいろ議論が出ていますから、飛ばして、「道の駅パーク構想」これも何回か出ているんですけども、これについてちょっとお伺いいたします。

11月にワークショップが行われたと先ほど企画観光課長から話があったと思うんですけども、ここで・・・、総数で40名位ですか、20数名の方が2日間で・・・、そういう話だと思うんですけど、町民で参加された方は3名でした。私は参加しなかったんですけども、直接は・・・。最後のまとめのところだけそこに参加させていただいて、どんな議論が・・・、どんな意見が交わされたかを確認しました。ここで割と面白い意見も出ていたわけです。それに対して・・・、あえて触れるのは、町長は依田邸を旅館として復活させたいとおっしゃっていました。言っていますよね。

ところが、その道の駅パーク構想で企画観光課長は、そのワークショップの前提でこの依田邸は宿泊設備として考えるのはやめてくださいと、ほかの利用方法で考えてくださいと最初に念を押したそうです。もう最初から依田邸は宿泊設備としての活用を考えないでくれと、ほかで議論をしてくれということなんですね。町長の考え方と違うわけです。町長、この辺はどうしますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 渡辺議員がいま申されました11月の道の駅のワークショップ、こちらは2日間で延べ48名の参加者があったわけです。この中で、ただいま私の方から町の基本条件として、宿泊施設として利用を考えないでくれということで説明したとありましたが、確かに、前段のスライドのところでもそういった表示をした、間違っただけの表示をしたんですけれども、その後のワークショップの討議にいくまでにおいて、この宿泊利用という全ての選択肢を否定するものではないということでワークショップの参加者に討議に移る前に訂正をさせていただきました。

ですから、先入観なしに宿泊利用は全くだめですよということではありませんということでご参加者の皆様に訂正をいたしまして、それで、その後の討議に移っていただいたということでございます。

○3番（渡辺文彦君） ぼくは、この道の駅パーク構想というのは進めるべきだとは思っているんですけれども、ただ、問題は、先月の議会の時にちょっとお話したんですけれども、松崎町公共施設等総合管理計画というのがございます。これが今年できております。これによりますと、松崎の施設を今後維持していくためには、収入・・・、収入は・・・、かかる経費が150億円位で、それに見込める収入が83億円位だった、確かそのくらいだったと思うんですけれども、どこかに出ているんですけれども、数字が見つからないので、ちょっと数字は定かじゃないんですけれども、その辺をもう一回・・・、その公共施設の総合計画に対する将来展望をちょっと簡単にお願いたします。

○総務課長（高木和彦君） それは、確か、これから40年・・・、50年だったかちょっと数字はあれなんですけれども、それをやっていく中でトータルすると、いま持っている施設の維持にかかるということと全協でしたか、その時に話をしたことはございます。

○3番（渡辺文彦君） ここにありました。更新費用の試算ということで、今後かかる経費ということで出ているわけなんですけれども、これを、ここから考えると、これから町の税収は落ちていって人口は減っていくという中で、新たな公共設備の投資ということになると・・・、今は公債費率はほとんどないに等しいような状況ですけれども、今後上がってくる可能性は十分あるわけです。

特に、この公共施設とまた別の枠の中で、水道とか温泉の事業がこの中には入っていないわけですね。実際は・・・。それに対するインフラ整備の経費も今後うんと予想されてきます。そういう中で、この施設ですね。依田邸にしても、道の駅三聖苑にしてもどういう形で維持していくかということを計画的に徹底していかないと、将来的に大変な負債を抱えてしまうリスクがあるということだけ申し上げておきたいと思っております。

時間がなくなりましたもので、これに対しての意見はお伺いできないんですけれども、まとめ

として、いろんな考え方があるかと思いますが、我われもいろんな情報なりを提供しますので、町長もその辺に耳を傾けていただいて、よりいい方向で町政を担っていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（土屋清武君） 以上で渡辺文彦君の一般質問を終わります。  
暫時休憩します。

（午後 1時55分）

---